第66回　栃木県空手道選手権大会

**新型コロナウイルス感染症蔓延予防対策における競技に関する申し合わせ事項**

 ①全体に関わって

・(公財)全日本空手道連盟感染症拡大防止ガイドラインに基づき、本大会は無観客で行うものとする。

・大会関係者（選手・役員・審判）入館時に体温チェックを受ける。

・監督については、中学生団体組手のみ付けることができる。ただし、競技終了後は選手と一緒に退館すること。（服装は空手衣着用）個人戦での監督はつけない。

・開閉会式・全体での表彰式等は行わない。各種目が終了次第順次本部席前で表彰する。

・保護者は送迎のみとし、原則入館しない。（入館が発覚した場合、当該選手は失格もありえます。）

・選手の体育館入館は2階入口とし、役員・審判員は１階入り口とする。退館については全員１階出口とする。

・競技中の選手以外は、全員マスク着用を原則とする。会場内でのソーシャルディスタンスを確保する。

・昼食については、観客席を利用して良い。但し自分で出したゴミはゴミ袋を持参し各自必ず持ち帰る。

・大会終了後２週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会主催者に対し速やかに報告すること。

②受付に関わって（入館者すべて対象）

・受付時に入館者は検温を受ける。「健康管理チェックシート」「連絡先等確認用紙」を提出する。

・入館時に発熱（３７．0度以上あるいは平熱より１度以上高い）があった選手は入館できない為棄権となる。

・入館時にエントリーチェックを行い、プログラム・参加賞を配布する。

③選手に関わって

・競技が終わった選手から順次速やかに退館する。応援等で残ることはしない。

・選手の荷物は、少年・成年は剣道場・中学生は柔道場に２ｍ以上間隔をとって置くこと。

・形・組手競技ともに、マイ帯の使用を原則とする。

　**◇マイ帯が無い選手は簡易的なひも等を赤・青各自用意する事。ひもの使い回しは厳禁。**

・ゼッケンは四辺を縫い付けて競技中はがれないようにする事。

・今回、サブアリーナは他の団体が利用するので利用不可とする。ロビーでの練習は厳禁。

・練習会場は、少年・成年は剣道場・中学生は柔道場とするが練習時間・入館対象者は、大会進行係委員の指示に従うこと。

・選手の待機場所として、観客席を使う場合もあるが、席を空けて座るようにすること。

・防具・タオル等の使いまわし、飲み物の回し飲みは禁止とする。

・練習時はマスクまたは、メンホーを着用すること。競技中及び練習場所での私語は控えること。

・成年の計量は剣道場で行う。

④形競技

・形競技は全て得点方式とする。中学生はROUND3まで、少年（高校生）はROUND1を二人演武で

おこなう。成年は全て一人演武とする。

・中学生は第一指定形・第二指定形・得意形2つの計４つが必要となる。少年以上は、第一・第二指定形から　１つと得意形２つ計３つの形が必要となる。（参加者が少ない種目はその限りではない。）

・形名の呼称と、競技中の気合い発声は可とする。（気合いが無くても採点の対象としない。）

⑤組手競技

・組手競技はトーナメント戦とする。（３位決定戦を行う）

・今大会も中学生は準々決勝まで１分間のフルタイムとし準決勝より通常通り１分３０秒のフルタイムとする。

・勝敗は６ポイント差とする。

・防具の共有、貸し借りは絶対にしない。

・メンホーをつけているときのみ、マスクを外してもよい。

・接触・飛沫感染予防、対策を考慮して、ニューメンホーシールドを内側に貼る（メーカー指定なし）

・競技中の気合い発声は可とする。

・試合前後に防具の消毒を行う。手指に加え、足裏の消毒も行う。

　（各コートに消毒液を準備するが、各自でも用意する事）

⑥審判・競技役員について

・審判は主審を含め全員フェイスシールド及びマスク着用を原則とする。

・選手との距離は１ｍ以上を保つ。

・審判用フラッグは、１人１組用意し、大会中はフラッグの共有はしない。

・監査は電子ホイッスルを使用する。

・タイマーなど共有を避けられないものはこまめに消毒する。あるいはビニール手袋を着用する。

・各コートの複数消毒液を配置する。